

# 地域の産業界と連携した人材育成

## —「諏訪実ミニメッセ」の開催と今後の展開—

長野県諏訪実業高等学校長 薄井 康央

### 1. はじめに

本校は、長野県諏訪市の甲州街道（国道20号）沿い位置し、商業科・服飾科と定時制普通科からなる専門高校である。近隣には諏訪湖、車山、霧ヶ峰、上諏訪温泉という観光地があり、宿泊業等の観光産業が発展した地域である。また、戦後は諏訪精工舎（現セイコーエプソン）の時計、三協精機（現日本電産サンキョー）のオルゴールなどから、日本を代表する精密機械工業地域に発展した。さらに隣接する岡谷市は、かつて製糸業で栄えた地域であり、明治から昭和初期には全国の3分の1を生産していた。今年には諏訪大社において長野県民族文化財に指定されている7年に1度の御柱祭が開催され、国内外から多くの観光客が訪れ大変な賑わいをみせた。こうした様々な産業や文化が集約されているこの地方の資源を、学校教育にどのように取り込み、活用するかが本校の教育課題の一つになっている。

### 2. 諏訪圏工業メッセ

諏訪地方では毎年10月中旬に「長野・諏訪から『ものづくり』の情報発信」を目的に「諏訪圏工業メッセ」が開催され、県内外の企業約300社が出展している。諏訪地域からも多くの企業が出展し、自社の製品の展示や営業活動の説明が行われ、県内外からの見学者が多数あり商談等も行われている。本校では2014年より2年生が進路学習の一環として見学に訪れ、地元企業の活動等を学んでいる。しかし、出展企業は高校生の訪問を歓迎してくれるもののやはり商談の場である。な

かなか高校生が入り込めない雰囲気があり、十分な学びには至っていないのが現状である。一方で、引率教職員は卒業生が勤務している企業を中心に訪問しているが、多くの企業からの話で共通しているキーワードは「人材不足」であった。特に若手人材の確保は多くの企業の課題となっていることを認識できた。

### 3. 長野県中小企業家同友会諏訪支部

諏訪地方の企業のほとんどは中小企業であり、本校卒業生の多くも地元の中小企業に就職している。本校としても、企業が地元高校に対してどのような期待を抱いているかを多角的に知るために、地元中小企業の有志で構成している、長野県中小企業家同友会諏訪支部の月例会に、職員が参加させていただき、中小企業経営者と意見交換する機会を得た。教職員の参加を大歓迎して下さると同時に、企業側からは高校ではどのような進路指導を展開しているのかという問い合わせも多くあり、本校における教育活動や進路指導の実際を報告する時間もいただいた。そして、双方が現状や直面している課題を報告し合ったことで、お互いの取り組みについて理解を深めることができ、「地域で活躍できる人材の育成」、「若手社員の確保と供給」という共通の課題を見出すことができた。

### 4. ミニメッセ（2015年10月7日実施）

この共通の課題の解決に向けた方策として「諏訪実ミニメッセ」という取り組みを企画した。生徒の学びやすさに配慮して本校の体育館を会場とし、学校側にとっては地域の様々な企業の取り組

みを1年生の段階で理解させ、地域の産業に対する興味・関心を高める機会として、企業側にとっては高校1年生に自社をアピールできる機会としての実施となった。参加企業は中小企業家同友会諏訪支部に加盟する23社と地元飲食店4社の27社（ブース）にのぼり、業種的にも製造（精密、金型等）、建設・設計、ブライダル、デザイン・映像、食品加工・販売、法律・会計事務所等多岐にわたった。これも同会からいただいたご協力とご配慮によるものである。

## 5. 初の試みから

参加企業側からは、「目を見て話を聴きノートにメモをとる姿」「本質的な質問内容」「積極性」など想定以上の好評をいただいた。また、「自分を活かす企業選択」「理念を理解しての企業選択」「地域における各種企業の役割の理解」「事後学習の充実」等の学校における指導に対する期待も寄せられた。

参加生徒の感想からは、「地元産業の現状」「働くことの意義」「企業経営のあり方」「顧客満足」「中小企業の強み」「学ぶことの大切さ」等を十分学ぶ事ができたと思われる。特に、多くの生徒が、現状に満足することなくチャレンジする意欲が大切であることを参加企業から学ばせていただいた。

当日の様子はマスコミに大きく取り上げていただき、同友会はもとより様々な団体から実践報告の依頼を受けた。その都度、生徒による実践報告と懇談の場を設けていただき、生徒のプレゼンテーション能力ならびにコミュニケーション能力の向上の機会とすることができた。

## 6. 現在

この取り組みは「キャリア教育」として位置づけている。単なる職業に関する学習としてではなく、「生き方を考える機会として取り組もう」と職員は学年通信や集会の折に生徒に呼びかけてきた。一方で、この取り組みを今後どのように展開するかが課題であったが、1年次に聴いたことを実際に体験して学びを深めるべく、現在ミニメッセに参加していただいた企業へのインターンシップを計画している。仕事を体験するだけでなく、新製品開発にむけた取り組みや顧客に対する思い、地域に貢献する活動等、企業活動の理念を学べるインターンシップを行いたいという考えには、受入企業からも賛同していただいております。全面的な協力体制が構築できることを期待している。

## 7. まとめとして

2014年、地元紙の1面に「諏訪地方の急速な人口減少」の実態が報じられた。このままの人口動態が続くと、地域産業の存続や文化の継承も危ぶまれる状況となる。こうしたなか本校のような専門高校には、地域を支える人材づくりが強く求められている。特に、県外に進学した卒業生が地元企業に就職し、地域の担い手となっていくためにも、高校時代に生徒が地域社会の一員として地域の職業人、社会人と対等に関わり学ぶ取り組みが重要である。そして、これは急激な時代の変化に対応する「21世紀型学力」の育成でもある。

